

大阪医療センターをご利用くださる先生方へ

Osaka National Hospital News



独立行政法人
国立病院機構 大阪医療センターニュース

このニュースは、年4回、大阪医療センターの最新情報をお届けいたします。
詳しいお問い合わせは地域医療連携室までお寄せください。

No.56
平成29年4月

目次

地域医療連携室より

- ・ 新任及び退職医師のお知らせ …… 2
- ・ 講演会のご案内 …… 2

病院のトピックス

- ・ 上松正朗臨床研究センター長 就任の挨拶… 3
- ・ 第57回 おおさか健康セミナー報告 …… 4
- ・ 第40回 法円坂地域医療フォーラム報告 …… 6
- ・ 平成28年度大阪医療センター災害訓練 …… 8

NHO PRESS

- ～国立病院機構通信～について …… 10
- ・ 3テスラMRI更新工事終了のお知らせ …… 11



独立行政法人
国立病院機構

大阪医療センター

地域医療連携室

平成29年4月発行 56号

〒540-0006 大阪市中央区法円坂2-1-14 TEL.06-6946-3516 ☎0120-694-635 FAX.06-6946-3517

[HP] <http://www.onh.go.jp/> [E-mail] comonh@onh.go.jp

～ 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの理念～

私たち、独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの職員は、

- 1、医療に係わるあらゆる人々の人権を尊重します。
- 2、透明性と質の高い医療を、分け隔て無く情熱をもって提供します。
- 3、医学の発展に貢献するとともに良き医療人の育成に努めます。
- 4、常に向上心をもって職務に専念し、健全な病院運営に寄与します。

～理念に基づいた病院の基本方針～

—— 独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センターの診療・研究・教育方針 ——

1) 政策医療の推進

- ・ 基幹医療施設としての「がん」「心・大血管疾患」「脳卒中」「糖尿病」等、高度総合医療の実施
- ・ HIV/AIDS先端医療の推進（近畿ブロック拠点病院）
- ・ 3次救急医療と災害医療の推進（西日本災害医療センター）
- ・ 専門医療と総合診療の充実
- ・ 医療機関の機能分担の推進と地域医療への貢献（地域医療支援病院）

2) 高度先進医療への貢献

- ・ 技術開発：先進的医療の基盤となる技術の研究開発とその臨床応用の確立
- ・ 臨床研究：病因の解明、診療治療法の開発等の臨床並びにその基礎となる研究の実施
- ・ 臨床試験の推進：治験を含む臨床試験の円滑な実施とその管理・支援

3) レベルの高い医療人を育成

- ・ 卒前教育：医療系教育施設と連携した教育活動と実習生の受入
- ・ 卒後研修：初期臨床研修医及び後期臨床研修医（専修医）等、卒後の医療技術者の育成
- ・ 専門職の育成

4) 情報開示と情報発信

- ・ 透明性を保った情報の開示・発信



- 正しく
- 品よく
- 心をこめて

新任及び退職医師のお知らせ

新任医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
H29.4.1	外科医長	加藤 健志	採用
H29.4.1	放射線診断科医師	坪山 尚寛	採用
H29.4.1	消化器内科医師	田中 聡司	採用
H29.4.1	外科医師	藤原 綾子	採用
H29.4.1	整形外科医師	松岡由希子	採用
H29.4.1	泌尿器科医師	洪 陽子	採用
H29.4.1	産婦人科医師	酒井 美恵	採用
H29.4.1	救命救急センター医師	小島 将裕	採用
H29.4.1	救命救急センター医師	田中 太助	採用

退職医師

異動年月	職名	氏名	異動内容
H29.3.31	外科医長	池田 正孝	退職
H29.3.31	外科医長	大宮 英泰	退職
H29.3.31	救命救急センター医長	梶野健太郎	退職
H29.3.31	放射線診断科医長	崔 秀美	退職
H29.3.31	放射線診断科医長	高村 学	退職
H29.3.31	救命救急センター医師	高端 恭輔	退職
H29.3.31	血液内科医師	水野 香織	退職
H29.3.31	小児科医師	松村 梨紗	退職
H29.3.31	消化器内科医師	西尾公美子	退職
H29.3.31	消化器内科医師	山田 拓哉	退職
H29.3.31	整形外科医師	中原 恵麻	退職
H29.3.31	泌尿器科医師	大島 純平	退職
H29.3.31	麻酔科医師	前田 晃彦	退職

講演会のご案内

開催日時	件名	内容	対象者
平成29年4月22日（土）	第58回おおさか健康セミナー	テーマ：大阪医療センター皮膚科の診療案内 担当：皮膚科	一般市民
平成29年5月17日（水）	2017年度 第1回オンコロジーセミナー	がん治療関連のインシデントについて	医師及び 医療従事者
平成29年6月 3日（土）	第59回おおさか健康セミナー	テーマ：未定 担当：循環器内科・心臓血管外科	一般市民
平成29年6月17日（土）	第41回法円坂地域医療フォーラム	テーマ：未定 担当：脳卒中内科	医師及び 医療従事者

開催場所 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階講堂 **アクセス** 地下鉄谷町線・中央線「谷町4丁目」駅①号出口すぐ

問合せ 地域医療連携室（電話：06-6946-3516）



臨床研究センター長 就任のご挨拶

平成29年1月1日より当院臨床研究センター長を拝命しました。昭和55年大阪大学医学部卒業で専門は循環器内科、特に心臓の超音波診断です。微力ではございますが、是恒院長、中森副院長、関本副院長、三田統括診療部長、伊藤看護部長、宮本事務部長をはじめ職員の方々と協力しつつ、地域の皆様のお役に立つ、より良い大阪医療センターを造っていかねばと思っています。

当院は国立病院機構の一員として政策医療を担うとともに、もう一つの特徴として臨床研究の推進があり、臨床研究センターが設置されています。近年の医学の発展はめざましいものがあります。例えば2006年に誕生した新しい多能性細胞であるiPS細胞は、再生医療を実現するために重要であり、京都大学の山中伸弥教授がノーベル賞を受賞されたことは記憶に新しいところです。

ただし、基礎研究の成果が臨床に生かされるためには、さらに多くの段階を経なければなりません。分子レベルや細胞レベルで認められる現象が実際の患者さんでも認められるかはわかりません。注意深く臨床研究を進める必要があります。一方、臨床研究は人類に貢献する可能性をもつとともに、リスクもあります。実際過去においては不適切な臨床研究の事例も知られています。それらをふまえ、平成26年12月には文部科学省および厚生労働省により「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が策定されました。研究対象者の福利は、科学的及び社会的な成果よりも優先されなければならないと、また、人間の尊厳及び人権が守られなければならないのです。さらにこの倫理指針は個人情報保護法等の改正に伴い、平成29年度に改正されます。あたりまえのことですが、目の前の一人一人の患者さんが一番大切なのです。我々医療者はこのことを常に肝に銘じつつ、まだ見ぬ未来の患者さんのため、臨床研究にチャレンジしていく必要があります。我々医療者が現在の診療を行っているのは、先人の医療者達の、そして過去の患者さん達のお陰です。我々も未来の患者さん、医療者達のために貢献していかなければなりません。

一言で臨床研究と言っても様々な種類があります。症例報告、ケース・コントロール研究、コホート研究、非ランダム化比較試験、RCT、メタ解析などです。エビデンス・レベルは違いますが、それぞれが重要です。各々が置かれた環境によって、可能な研究を行うことが医学の発展および社会貢献につながります。臨床研究といっても、今は医師の裁量でなんでもできる時代ではなく、きちんとした手続きを踏んだ上で、患者さんの安全を最大限に尊重して行われます。どうぞご安心下さい。

最後に、臨床研究のもう一つのメリットがあります。病院の臨床レベルが上がることで、臨床治験や臨床研究を行うことは、内部、外部から様々なチェックを受けます。いい加減な診療はできないのです。そういう意味では、手前味噌ではありますが、臨床研究を積極的に推進している病院には安心して患者さんを紹介していただけるのではないかと考えています。今後病院が存続していくためには、地域の皆様との連携が欠かせません。何卒よろしくご挨拶申し上げます。

独立行政法人 国立病院機構

大阪医療センター臨床研究センター長 上松 正朗

第57回 おおさか健康セミナー報告

国立病院機構大阪医療センター 消化器内科 科長 石田 永

平成29年1月28日（土）、当院救急災害医療棟・講堂におきまして、第57回おおさか健康セミナーが開催されました。今回は消化器内科の担当で「身近にある消化器の病気」をテーマにしました。その概況を報告させていただきます。

消化器内科が診療を担当する臓器は文字通り食物の消化に関わるもの、すなわち食物の通り道である消化管（食道、胃、小腸、大腸）と消化液の分泌に携わる肝臓・胆嚢・膵臓です。それぞれに多彩な疾患像を呈し、しかも比較的身の回りで経験されるようなものが多くあるのが特徴ではないかと思えます。今回はその中から5つの演題を用意いたしました。

まず、消化器内科副科長、中水流正一医師から「生活習慣と膵疾患」という演題で講演がありました。膵癌は早期での発見・診断が大変難しく、医療が進歩してきてもまだまだ生存率の低い病気であること、また膵炎と生活習慣との関連として飲酒や肥満、高脂血症、胆石などがあることをご説明頂きました。膵癌の症例は年々増加しており、

定期的なチェックが望まれます。続いて長谷川裕子医師より「感染性腸炎 ー日常生活での注意点ー」について講演してもらいました。特に定期的にノロウイルス感染症が流行していたこともあり、消毒の方法について詳しく説明して頂きました。特にしっかり手洗いをすることが重要です。また食物による食中毒とその対処法についてもお話しがありました。石原朗雄医師からは、「肥満と脂肪肝」についての講演がありました。脂肪肝は昨今増加している生活習慣病の一つですが、脂肪性肝炎は肝硬変に進行しうること、さらに肝癌の発症リスクがあり、そのため体重の適切な管理が重要であるとの内容でした。岩崎哲也医師からは「大腸ポリープと大腸癌」のお話しがあり、組織学的には腺腫に分類される大腸ポリープは癌に進行する可能性があること、大腸内視鏡によるポリープ・癌の検査について、また内視鏡下での早期癌の切除法についての説明をして頂きました。最後に山田拓哉医師より、「ピロリ菌と胃癌」のお話しがありました。ピロリ菌は胃炎や胃潰瘍のみなら



ず胃癌とも密接な関連があること、1週間の内服薬による治療で多くは除菌できるということでした。最近では胃癌や大腸癌でも早期のものは内視鏡で切除でき、以前のように外科的に手術せずに治療できる症例も増えてきています。

5つの講演内容を振り返ってみますと、普段の食生活や飲酒などの生活習慣が消化器疾患と密接に関連していることを示して頂いたように思いました。病気のことを理解するとともに、生活の中で留意すべき点、最新の検査や治療についての知識が少しでも深まり、それが皆様のさらなる健康増進につながれば幸いに思います。

今回のセミナーはまだまだ寒い中ではありましたが、158名の多くの方にご参加頂きました。記入して頂いたアンケートの中で、たくさんのご質問を頂戴したのですが、時間の都合上十分にお答えできる時間がとれず申し訳ありませんでした。休憩を挟みながらも2時間30分に及ぶ長丁場でしたが、ほとんどの方は最後まで聴講して頂き、盛況のうちに終わることができました。講演頂いた先生方や、本セミナーの企画・調整をして頂いた方々、そしてご参加頂いた皆様方にこの場を借りて深謝いたします。



第40回 法円坂地域医療フォーラム報告

国立病院機構大阪医療センター 整形外科 科長 上田 孝文

第40回法円坂地域医療フォーラムを、平成29年2月25日（土）に当院災害医療棟3F講堂において開催させていただきました。今回のテーマは、「運動器の腫瘍性疾患～転移性骨腫瘍（がん骨転移）と軟部腫瘍（軟部のしこり）を中心に」ということで、整形外科が扱う運動器疾患の中でもかなり専門的な分野であったせいか、参加人数が院外21名、院内10名の計31名と、土曜日の午後とはいえ、やや少なめの開催となりました。

当院地域医療連携推進部長の橋川一雄先生による司会の元、是恒之宏院長より開会のご挨拶があり、二部からなる講演が行われました。まず第一部講演は、当科医長（臨床腫瘍科・科長兼任）の久田原郁夫先生による「転移性骨腫瘍の診断のポイントと新規治療法」というタイトルでお話いただきました。人口の高齢化やがん治療の進歩に伴い、がん骨転移は近年増加しており、年間約10～20万人もの新規がん骨転移患者が発生していると推定されます。したがって、がんを扱う全ての病院で、骨・軟部腫瘍専門医のみならず広く整形

第40回 法円坂 地域医療フォーラム

**「運動器の腫瘍性疾患
～転移性骨腫瘍（がん骨転移）と
軟部腫瘍（軟部のしこり）を中心に」**

日時：平成29年2月25日（土） 15：00～17：30
会場：国立病院機構 大阪医療センター 緊急災害医療棟3階 講堂

【司会】 国立病院機構大阪医療センター 地域医療連携推進部長 橋川 一雄

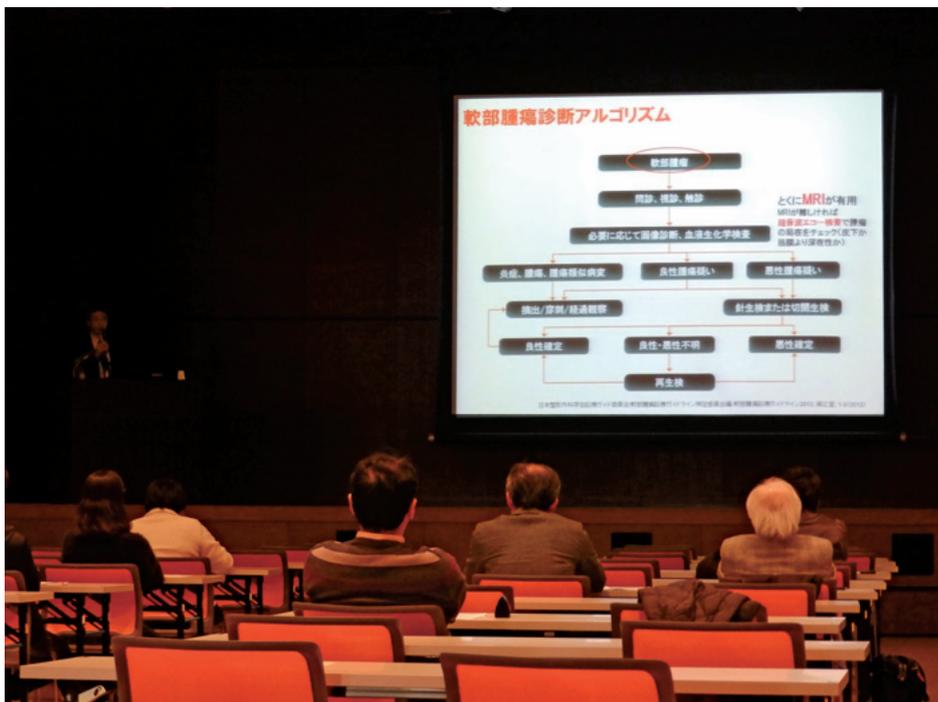
1. 開会挨拶
国立病院機構大阪医療センター 院長 是恒 之宏

2. 講演
第一部 教育講演
【座長】 国立病院機構大阪医療センター 整形外科 科長 上田 孝文
「転移性骨腫瘍の診断のポイントと新規治療法」
国立病院機構大阪医療センター 臨床腫瘍科科長 整形外科医長 久田原郁夫
第二部 教育講演
【座長】 国立病院機構大阪医療センター 臨床腫瘍科科長 整形外科医長 久田原郁夫
「日常診療に役立つ軟部腫瘍診断の要点とピットフォール」
国立病院機構大阪医療センター 整形外科 科長 上田 孝文

3. 閉会挨拶
国立病院機構大阪医療センター 副院長 中森 正二

主催：「法円坂 地域医療フォーラム」運営協議会

外科医ががん骨転移治療に介入することが求められています。本講演の中では、骨転移（固形がん骨転移および骨髄腫やリンパ腫などの血液がん疾患も含む）の病態、画像診断のポイント、治療選択の仕方などについて解説され、さらに最近登場してきた各種の新規治療薬についても紹介されました。



次いで第二部講演が、整形外科科長の上田孝文より「日常診療に役立つ軟部腫瘍診断の要点とピットフォール」というタイトルで行われました。軟部腫瘍という疾患は、いわゆる体表の軟部組織の「しこり」として受診されることが多く、良性悪性を含む様々な組織型からなる腫瘍性疾患であり、しかもガングリオンや皮膚腫瘍、各種炎症性肉芽腫性疾患、反応性リンパ節腫大など軟部腫瘍と鑑別を要する類似疾患も含め、じつに多彩な疾患よりなるといった特徴があります。その中で、悪性の軟部肉腫は組織型も様々なものからなるだけでなく、非常にまれな疾患であることから、正しい診断を行うのがしばしば非常に難しいという特徴があります。本講演では、これらいわゆる軟

部の「しこり」をいかに正しく診断するためのポイントとピットフォールにつき、出来るだけ多くの症例を供覧するとともに、最近明らかになってきた各組織型ごとに特異的な融合遺伝子異常などについても触れながら、できるだけ分かりやすく解説しました。

最後に、当院臨床研究センター長の上松正朗先生より、閉会のご挨拶を頂きました。今回のフォーラムの出席者数はやや少なめではありましたが、参加いただいた先生方からは、ふだんあまり聴くことのない、がん骨転移のマネージメントや軟部の「しこり」の診方をよく理解することができたと、お褒めのお言葉(?)を頂くことが出来ました。



平成28年度大阪医療センター災害訓練

災害医療対策部 訓練・マニュアル管理室長 若井 聡智

去る平成29年1月14日に大阪医療センター恒例の災害訓練を行いました。

H28年度の訓練目標は、当院の災害マニュアル（アクションカードを含む）を刷新し、その検証を行うこととしました。今回の訓練では準備のために時間を割ける職員に限りがあり、訓練の企画運営を縮小せざるを得なくなったため、訓練想定などは昨年とほぼ同様で、地震・それに伴う放射線事故・爆発事故としました。

具体的には、訓練当日の当直帯（早朝）に大阪府で震度6強の直下型地震が発生したという想定で訓練を実施し、当院には100名以上の地震による傷病者、放射線性物質による汚染が疑われる数十名の被災者、爆発事故による数名の傷病者が搬入され、トリアージ・治療・入院または転院搬送対応を行いました。当院職員だけでなく、支援に来ていただいたDMAT3隊（大阪大学・大阪警察病院・国立敦賀医療センターDMAT）との協働で

対応しました。当院職員の訓練参加者は650名を超え、うち約120名が当院附属看護学校生でした。

H28年度に病院幹部の交替があったため、災害対策本部運営訓練を最重要課題として訓練に臨みました。当直勤務者で立ち上げる『暫定対策本部』から『災害対策本部』に円滑な引き継ぎができるように、チェックリストを追加したことで、引き継ぎ業務はうまく行えました。しかし、他部門固有のマニュアルも存在し、それらを病院全体の災害マニュアルに統合していなかったため多少の支障をきたしました。また、支援DMATとの協働を行うための指揮系統図が明確に記されていないため、混乱を生じました。これらの課題に対しては、即日マニュアルの改訂を行い対応しました。

トリアージ、診療エリアに関する訓練内容・結果の詳細については省略しますが、少なからず反省点が明らかになり、改善点をマニュアルに反映させました。



今回の訓練で、(事前にわかっていたことではあります) 充実した災害訓練を行うためには、訓練前の準備はもちろんのこと、訓練中の状況付与や調整を臨機応変に行うことができるスタッフが必要不可欠であると実感しました。つまり、災害医療に精通したスタッフを一人でも多く育成することが必要であると感じております。これは訓練のためだけではなく、災害時に当院の患者さんを守るために大変重要なことであると考えます。

さらに、訓練時に真剣に対応して苦勞しなければ、実災害では太刀打ちできないと思います。災害だから仕方がないと、諦めてしまうのではなく、訓練時に知恵を絞りに絞って、困難な場面をなんとか乗り越えるということをやっておかないと、実災害で多くの命を失うこととなります。

最後に、国会中継を見ている『DMAT』という言葉が、首相からも国会議員からも当たり前のように発言されており、さらには『DHEAT』に関する議論も進んでいる昨今、災害医療の認識とその重要性が増していると思われます。

その中で、大阪また全国における当院の災害医療における期待度を考えると、今後も訓練を続けて日々進化していかなければなりません。しかし、どこの組織でもそうだと思いますが、当院も未だ災害対応に完璧で万全とは言えません。そうなるためには、災害訓練は不可欠です。

災害拠点病院・活動拠点本部として、当院の救命救急センター同様、地域の皆様の最後の砦となるべく、全職員一丸となって、今後も続けていきたいと考えています。



NHO PRESS

～国立病院機構通信～について

大阪医療センターは、国立病院機構（NHO：National Hospital Organization）という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構（NHO）という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する『NHO PRESS～国立病院機構通信～』を発行しています。

ホームページに最新号と過去のを掲載していますので、ぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



NHO PRESS

検索

QRコード



平成29年 4月吉日

連携医療機関 各位

国立病院機構 大阪医療センター
地域医療連携室

3テスラMRI更新工事終了のお知らせ

謹啓

陽春の候、連携医療機関各位におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は地域医療連携にご協力頂き誠にありがとうございます。

昨年9月より実施しておりましたMRI装置の更新工事は、本年1月末をもって無事終了いたしました。現在は、最上位機種の3テスラMRI装置が稼働しております。

工事期間中、連携医療機関の皆様には大変ご不便をおかけし申し訳ございませんでした。

新たな設備で、連携医療機関の先生方に最新の画像診断を提供できるよう尽力いたしますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

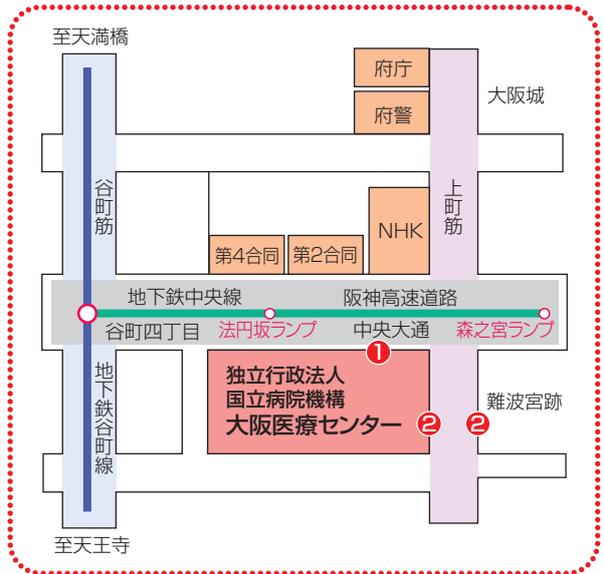
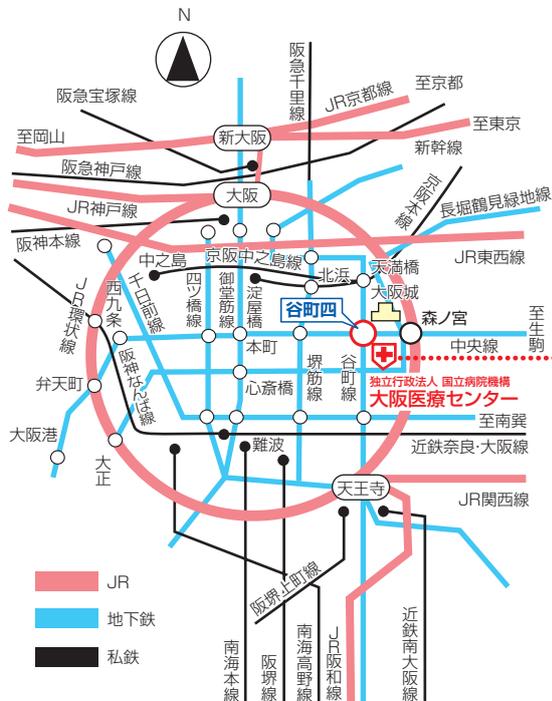
謹白

国立病院機構 大阪医療センター 地域連携室ホームページに

画像診断専用のFAX申込書がございますので御利用ください。

<http://www.onh.go.jp/comec/medical.html>

交通のご案内



① 地下鉄「谷町4丁目」11番出口 ② 市バス「国立病院大阪医療センター」

■地下鉄

谷町線・中央線「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■J R

大阪環状線「森ノ宮」駅下車、地下鉄中央線乗り換え「谷町4丁目」駅下車 ①番出口すぐ

■バス

市バス「国立病院大阪医療センター」下車

■マイカー・タクシー

・阪神高速 13号 東大阪線

▼環状線経由の場合

「法円坂」出口 上町筋を右折すぐ

▼東大阪方面からの場合

「森之宮」出口 中央大通り直進、上町筋を左折すぐ

・上町筋と中央大通りの交差点の南西角

・お車の出入口は上町筋です。

・新病院建設工事の為、入口は中央大通り沿い（北側）、出口は西側の一方通行となっておりましたが、平成29年5月1日より出入口は上町筋（東側）になります。

・北側入口は封鎖されますのでご了承下さい。